

平成 25 年度地域教育行政懇談会等の開催結果の概要について

1 議題

地域教育行政懇談会：食育の推進について

市町教育行政意見交換会：土曜授業の実施について

2 出席者

地域教育行政懇談会：P T A や学校評議員等の学校関係者、公民館関係者や地元婦人会等の地域団体関係者

市町教育行政意見交換会：各市町(組合)教育委員(長)及び市町教育長

3 日程・出席者等

開催日	開催地域(市町)	出席者数	
		懇談会	意見交換会
8月26日(月)	三観地域 (観音寺市・三豊市)	6人	14人
8月29日(木)	丸亀・坂綾地域 (丸亀市・坂出市・綾川町・宇多津町)	10人	14人
8月30日(金)	東讃地域 (さぬき市・東かがわ市)	7人	8人
9月3日(火)	高松地域 (高松市、三木町、直島町)	10人	6人
9月9日(月)	仲善地域 (善通寺市・琴平町・多度津町・まんのう町)	9人	15人
10月21日(月)	小豆地域 (土庄町・小豆島町)	6人	9人

4 地域教育行政懇談会の議題に関する意見の概要

(家庭に関して)

- ◆小学校にあがるまでに朝食を取る習慣をつける必要がある。
- ◆食事をきちんとしている家庭と崩れている家庭の両極端である。
- ◆2年間、早寝早起き朝ごはん運動を徹底的に行ったところ、かなり浸透した。意識の低い保護者をどう取り込むかが問題である。
- ◆食育の重要性を親に知ってもらうことが大事である。
- ◆母親が朝ごはんの大切さを理解していない。辛抱、根気など全てにおいて、社会に出てからも影響があることの怖さを、学校で何かの機会に伝えてほしい。学校給食だけでは補えないということを保護者に伝える方法はないか。
- ◆電子レンジで手間なく作ることもできるので、少しでも朝ごはんを作って欲しい。
- ◆朝食を作らない親の教育は難しいので、子どもたちに将来に向けてのメッセージを発する方が効果的である。
- ◆最近の子どもは空腹感がないから偏食ををすると思う。
- ◆間食をする子どもが多い。そのため、夕食の時間が遅くなり、翌日の朝食がとれない。
- ◆部活動の部員で料理をしたが、野菜を食べられない子は、自分で手をかけたら食べていた。
- ◆最近では冷凍食品が多い。もっと野菜摂取のことを考えてほしい。
- ◆朝食の問題は、ライフスタイルの変化も背景にある。
- ◆小学校で朝食が取れていても、中学校になると取らない人がでてくる。
- ◆家庭内の状況を意見交換する機会がない。
- ◆不登校の子どもは、朝食を取っておらず、生活リズムは乱れている。

(地域に関して)

- ◆学校での取組とは別に、町内で子ども、保護者、関係者が集まり、朝ごはんフェスタなどをすれば実践に結びつくのではないか。
- ◆全体的に広く呼びかけても振り向いてもらえないので、自治会単位などの小グループで顔が見えるところでの取組をしてはどうか。
- ◆地域が食育の取組を継続していけるように、場を提供していく学校づくりが必要である。
- ◆コミュニティスクール（地域の人が学校で子どもたちと一緒に活動）では、朝ごはんコンテストなどを行った。子どもたちが料理に関わることで、関心を持つきっかけになっている。
- ◆公民館で、子どもたちが宿泊し、そこから学校に通う事業がある。夕食を地域の人と一緒に作るので、会話を通じて食に関する情報を身を持って体験できる。
- ◆地域で朝食の大切さについて紙芝居を作り親子に話をした。多人数ではなく、少人数でもいいので、理解してもらう機会を持てばいいと思う。
- ◆香川県 PTA 連絡協議会では、地域ごとに家庭教育推進専門員がいるので、その方に学校でワークショップをしてもらうのもいいのではないか。
- ◆PTA の会で、朝食を取る大切さを説明すると、欠食が減ってきた。このような取組を続けていく必要がある。

(学校に関して)

- ◆学校で食育をもっと取り入れてほしい。
- ◆学校が積極的に地域の人と関わることができるかが重要である。
- ◆学校や園側から、啓発してもらうようにすればいい。
- ◆幼稚園で、朝食を取ってきていない子どもの親に、送り迎えの際に、朝食を取らせるようお願いしたら、ちゃんと朝食を取るようになった。
- ◆JAに食育の指導員がいるので、学校に呼んで話をしてもらう方法もある。
- ◆朝食を取ることに、学校で徹底的に教えてはどうか。
- ◆小学校低学年で朝ごはんを作れるようになればいい。家庭科の授業で力をつけてあげればよい。
- ◆石川県の学校で、朝食を食べてきたか確認して、意識づけをしていた。
- ◆家庭科の授業で調理をすることで、食を学べばよい。
- ◆朝食を作って絵日記を書いてくることをしていて、良い体験だと思う。
- ◆各学期の懇談会の時に、今回のような朝ごはんに関するデータを渡してはどうか。
- ◆難しいとは思いますが、学校で朝食を食べる時間を設けてはどうか。
- ◆食育については、学校給食が一番大事である。学校給食での地場産物は、平成27年度までに35%を目標としているが、40%に引き上げて欲しい。
- ◆朝食は取れているが、内容ではバランスが取れていないことから、小学校で望ましい朝食のメニューを提示した。一時的にはできていたが、継続が難しい。子どもたちにも繰り返し指導が必要である。
- ◆朝食摂取率は、ほぼ100%に近い。学校で、地域の人と一緒に野菜を植えたり、収穫している。それを調理して出すと、野菜嫌いにも効果がある。
- ◆10年前、食育研究指定校で、保護者も地域も巻き込んで行ったら、子どもと一緒にするので、保護者も関心を持ってくれた。
- ◆給食が学校からセンターに変わりつつあるので、栄養教諭が減っていき、子どもに直接指導できる機会が少なくなる可能性がある。栄養教諭が定期的に学校に行ける環境を確保して欲しい。
- ◆養護教諭と連携して情報交換をスムーズにして欲しい。

(その他)

- ◆研修会や講演会だと、本当に聞いて欲しい親に来てもらえないのが現状である。
- ◆研修会などに来ない親と接点がないのなら、啓発パンフレットを会社に配り、会社から社員に周知してもらえばいい。
- ◆企業内で啓発すれば子どもを必然的に巻き込むことができるのではないか。教育委員会から企業への働きかけが必要なのではないか。
- ◆地産地消のために、農業などの体験の場が必要である。
- ◆ポスターを作成しているが、スーパーなど誰もが行くところなら目に付きやすいので貼ってはどうか。
- ◆「安全カー」のように、啓発に「食育カー」があればいい。
- ◆血液検査で異常があったのは1割であった。問題のあった子どもの保護者にはテキスト、レシピ等を渡して説明したが、全員の保護者が来るわけではない。再検査したら、改善した子もいる。
- ◆血液検査で異常があった場合は、医師が個別に対応している。また、就学前からのチェックを始

めた。

- ◆食生活を改善するための食の指導は、個別に対応、指導しないと良くならない。
- ◆野菜嫌いが増えている印象で、その原因を調べてみると良いのではないか。
- ◆朝食のデータは、スポーツ（部活動、スポ少）の影響についての相関関係がみられるよう、もう少し細分化すれば、ピンポイントで改善するポイントを見極めることができるのではないか。
- ◆大学で教えているが、大学生は4割が朝食を食べていない。県教委の資料では、子どもは1割が朝食を食べていないとあるが、それが何故問題になるのか分からない。